

**「ムギ・マメのススメ」
北陸麦・大豆サロン（麦）
開催概要**

令和5年1月26日 開催

北陸農政局
生産部 生産振興課

北陸麦・大豆サロン（麦）〈背景〉

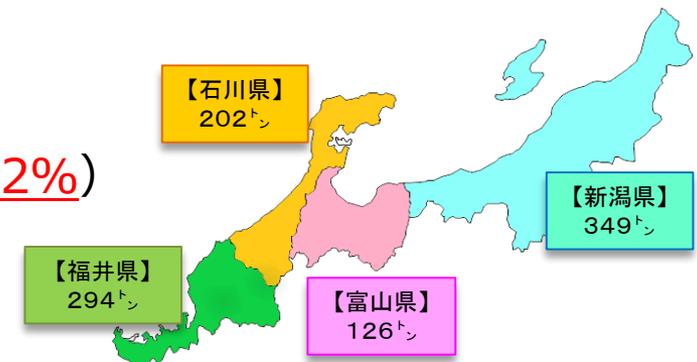
○ 主食用米マーケットの縮小が進み、米から需要のある品目への転換が必要。特に、水田率が高い北陸地域においては、外国産小麦の高騰の今、麦・大豆の生産拡大への好機。

○ 生産者と実需者が連携し、実需者との結びつきを拡大するとともに、品質・量・価格等の実需者の要望を満たす小麦を安定供給していくための取組が必要。

○ 本サロンでは、生産者と実需者が連携し、ゼロ生産からの小麦復活や地場産小麦を使用したブランド製品づくりの事例、小麦の栽培技術等の工夫について情報提供を行い、今後の小麦生産の推進することを目的に開催。

【北陸の小麦の生産状況（R4）】

- ・ 全国で227千ha(約987千ト)に対し、北陸では398ha(約971ト)と全国シェアはとても低い（0.2%）
- ・ 10a当たり収量も、全国平均の6割程度。
北陸平均：244kg/10a
全国平均：434kg/10a



北陸麦・大豆サロン（麦） <新潟小麦の会>

テーマ

新潟小麦の会事務局 丸榮製粉(株)取締役

マルエイファーム(株) 代表取締役

大谷 勝男氏

小麦の安定生産のポイント

○肥培管理等

- ・ 基肥：降雪前に十分な**茎数と草丈の確保**が必要なため、逆算して播種時期を決定。
- ・ 開花期追肥：パン用に必要な**タンパク質12.5%**を確保。
- ・ 防カビ剤：開花期と1週間～10日後の**合計2回**の散布は必須。

○排水対策等

- ・ 特に水田の場合、**暗渠、明渠、平高畝**などの排水対策が必要。砂丘畑は**心土破碎**が必要。
- ・ 播種前の**雑草対策が重要**。播種後は、選択制除草剤で対応する。

今後の販売拡大

○新たな用途の販売

- ・ パン・中華用小麦「**ゆきちから**」や「**夏黄金**」に加え、麺用の「**ゆきはるか**」の栽培にも取り組む。
- ・ 今後は、**新潟県産小麦（強力、中薄力）1,000 t**を希望。小麦に興味がある農家は新潟小麦の会に入っただき、情報交換して、**小麦作りに挑戦していただければと思う**。

北陸麦・大豆サロン（麦） <新潟県醤油協業組合>

テーマ

新潟県醤油協業組合 理事長 佐田 直人氏

北陸産小麦に求めるスペック

○品質・量（ロット）

- ・たんぱく質は高い方がよく12%以上。ロットは12 t/回使用。

○品種

- ・現在は「ゆきちから」100%。
- ・今後は「夏黄金」の使用についても新潟県産醤油プロジェクトチームで検討していく。

○受け皿

- ・醤油は低アミロースでも影響が少なく、パン等に使えない品質のものでも醤油には使える。
- ・外国産から、国内産への切り替えの受け皿となると考えている。

今後の小麦の需要

○県産小麦の使用量はR4産からR5産で3倍。

- ・近年、県産丸大豆醤油（大豆は県産、小麦は群馬県産）と天然醸造の醤油の需要が増えており、急遽、県産小麦を確保し、仕込みを増やしている。
- ・県産原料を使っている安心安全の付加価値のあるものにファンがついている。

北陸麦・大豆サロン（麦） <中日本農業研究センター>

テーマ

水田利用研究領域 作物生産システムグループ 島崎 由美氏

小麦の安定生産のポイント

○排水対策

- ・ 周囲明渠などの**地表排水対策**は必須。また、**地下排水対策**は、大区画ほ場ほど重要。
- ・ **畝立て**や**深耕**などの滞水から隔離する技術を導入。

○土壌分析

- ・ 土壌pHは**6.0~7.0**を目標とし、6.0を下回るようであれば播種前に土壌改良剤として**石灰**を散布。

○施肥

- ・ パン・中華麺用品種では、**子実タンパク質含有率**を高めるために**止葉期~開花期の追肥**が必須。
- ・ 苗立数が少ない、生育が遅い等の場合は、**越冬前追肥**を施用。

○防除

- ・ **播種後の除草剤散布**が基本で、イネ科雑草を防除する最後のチャンス。
- ・ **赤かび病防除**は必ず異なる薬剤で2回以上行う。

品種

- ・ 北陸では莖立時期が安定する**秋播型品種**を選定。
- ・ 販売先の希望をもとに、用途に合わせて、各県の**産地品種銘柄**に指定されている品種から選ぶのがよい。

北陸麦・大豆サロン（麦） <まとめ>

サロンで分かったこと

- 1 実需者から求められる北陸産小麦は、パン、麺、醤油などの用途別に「品質」と「量」に、対応できる生産体制づくりが必要。
- 2 安定供給とは、実需者のニーズ把握と、生産者側・実需者側の連携を進化させていく必要。
- 3 実需者を起点とした地域連携の下で、新しい需要を捉えつつ、北陸産小麦の生産地を展開するなど拡大していく。
- 4 栽培上の諸課題（穂発芽、赤カビ病）の解決策などの栽培技術の周知を行うことが必要。

安定生産のポイント

- 1 小麦の安定生産には、排水対策と適期作業（開花期追肥、雑草防除、赤カビ防除等）が重要。
- 2 土壌分析を実施し、土壌pHが6.0を下回るようであれば石灰を播種前に散布。

品種の選定

- 1 北陸では茎立時期が安定する秋播型品種を選定（新しい品種開発を期待）。
- 2 小麦は粒の硬さで硬質小麦と軟質小麦に大別され、品種によって用途が異なる。販売先が欲しい種類の品種を栽培する。

北陸麦・大豆サロン（麦）〈アンケート結果〉

※アンケート回答率：約45%

- アンケート回答者の内訳として最も多かったのは、生産者（法人）。
続いて行政、実需者・研究機関の順。
- 今後、更に聞きたい話として、「北陸地域に適応した栽培技術」
「外麦の情勢」等の意見があった。

サロンでさらに掘り下げて聞きたかったこと（抜粋）

- 1 具体的な栽培技術（**土壌管理や除草対策等**）（生産者）
- 2 外麦（**特に北米産**）の情勢やマーケット（実需者）
（国産麦の普及拡大には、外麦からの切り替えがポイントとなるため）
- 3 **新品種の開発**（生産者）
（小麦の収穫が遅くなると次の大豆の播種時期と重なるため、極早生の品種等の開発を望む。）